

■ 特集 3

メディア賑わす尾州企業

中国に「ショールーム」や「工場」など多彩

(ここに収録のニュースは5月から9月15日までの掲載分です)

レディス苦戦で減収

御幸ホールディングス

05年3月連結決算は、メンズ関連は検討したもののレディス関連が低迷、年金資産の時価評価の減や外形標準課税もあって減収減益となった。売上高は177億9800万円(前年比1.6%減)、営業利益は2100万円(92.3%減)、経常利益は9500万円(72.7%減)。当期利益は株式売却益の計上などで3億6600万円(1.5%減)を確保した。繊維事業の売上は139億5400万円(1.6%減)だった。

ドメールと資本提携

御幸ホールディングス

紳士服地の世界的な卸売り会社を傘下に持つ仏ドメール持ち株会社と資本提携したと発表した。御幸子会社の英ミノバとドメール子会社のドメール服地事業会社が株式の一部を持ち合い、ドメールの服地事業とファッション事業に対して、ミノバが生産機能を提供する。

黄金の繭糸でジャケット

御幸毛織

インド北東部のアッサム州に生息するムガ蚕を紳士ジャケット地に織り上げた「ナポレナ・ゴールデンシルク」を販売する。ムガ蚕は野蚕の一種で、世界的にも生産地は同州のみとされており、生産量は非常に少ない。

デザイナーとの競合

野口、神田毛織

経済産業省・中小企業基盤整備機構は6月7・8日、東京・青山ベルコモンズで「クリエイション・ビジネスフォーラム(CBF)―『匠』『創』『商』の出会い」を開催。川中出展企業のうち毛織物は野口、神田毛織で、協業デザイナーは野口が本間遊、神田毛織が伊藤弘子。

ラックやザクロで草木染め

田中テキスタイル

染色整理の藤井整絨と共同でハナモツヤクノキにつくラックカイガラムシを原料とするラックと果実のザクロを使った草木染め生地を開発した。反染め生地を主体に06年春夏向けから販売する。

中国に工場

西川毛織

中国馬鞍山市に100%出資の毛織物会社「馬鞍山西川毛織有限公司」を設立した。10月から操業を開始する。同社が生産を依拠している尾州産地は、生産量の減少に伴って設備の老朽化や従業員の高齢化が進んでいる。「今の段階では国内生産で不自由していない」(西川社長)が、将来の産地の空洞化を考えて、中国に生産拠点を設立した。当面「年間9万反のうち、中国工場の生産は20%以内に押さえる」方針。

アパレルと直取引

近藤

アパレルメーカーとの直接取引を拡大している。原系だけではなく、製品での提案を増やすほか、国内外のOEM(相手先ブランドによる生産)も行っている。原系から製品までを一貫で提案し、アパレルメーカーが進めるブランドや製品の差別化を支える。

P Vに出展

いわなか

9月にパリで開かれる国際素材展、プルミエール・ヴィジョンに初めて出展する。国内で販売している商品をそのまま出品、欧州での信用や認知度の向上を目指すほか、米国のバイヤーとの関係を広げる。

インパナ事業育成

みづほ興業

中小繊維製造事業者自立事業に採択されたインパナ事業を経営の柱として育成する。国内での販売のほか輸出も進める考えだ。インパナ事業は全国の加工メーカー11社が連携、特徴ある染色整理や後加工によって付加価値を高めた生地をアパレルに直接販売する仕組み。

10*まで翌日納期

アセ興

加工分野を多様化するとともに、特殊加工と短納期で特徴を出し、操業の安定化に取り組んでいる。現在手掛けているのは衣料分野のほか自動車、電車、バスのシートやインテリアなどで、非衣料の比率は50%。特殊加工は糸染めの前段階で行うウールのスケールオフを基本に様々な加工を工夫している。また10*以内の小口は翌日納めという小ロット、短納期対応も行っている。

設備集約化で業績回復

艶金興業

今年上期(12~5月)は計画費12%増で推移した。6、7月も昨年対比で増収となっており、リストラ施策が実ってきた。同社は昨年5月に津島工場を閉鎖、起の本社工場と木曽川の2工場に染色整理事業を集約した。津島工場の差別化加工設備は起工場に移設した。

東海花菱とEO紳士服

艶金興業

イージーオーダー(EO)専門店の東海花菱と共同して行う紳士服製造事業が、中小繊維製造事業者自立事業に採択された。共同事業は通常のEO服では得られない着心地の良い紳士服を提供するのが目的。このため、既製服向けでは生地の染色整理で効率化のため省く工程があるのに対して、この事業では製造工程を省かずに毛織生地をていねいに作る。

上海事務所開設

中伝毛織

中国内販売対策に着手するため、上海市に上海代表事務所兼常設ショールームを開設。事務所は70平方メートルで、代表所の主席代表として岩田則安取締役副会長が常駐し、現地社員を含めて当面2名で業務を開始する。常設ショールームには約500点の高級・差別化素材を揃え、中国アパレル企業や日系アパレルに提案する。

展示会を開催

中伝毛織

29日から9月2日まで同社で07年春夏展示会を同社で開く。テーマは「テクスター」。

パリJB展に出展

みづほ興業

9月にパリで開く「第2回JB(ジョイント・尾州)パリ展示商談会」に同社の加工による服地やインパナ事業で各産地の加工場と協業した加工商品を出展する。同社の加工技術による生地6点、協業している京都、福井、三重、愛知の整理加工場と仕上げた高付加価値商品4点、他産地の織物を同社で再生させた1点を展示する。

多品種短納期を強化

日興テキスタイル

中小繊維製造業者自立事業の採択を受けて、多品種少量短納期型による生地生産をさらに強化する。自立事業として取り組むのは、春夏商品の開発と、成約スピードアップのための情報システム構築、紡織一貫ラインの整備。

西陣織をメンズに

御幸毛織

日本の伝統織物の象徴的存在といえる京都の西陣織を秋冬物メンズ高級ジャケット生地として企画した。